

平成18年度

独立行政法人国立博物館

京都国立博物館

実績報告書

# 目次

I	国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置	1
1.	日本の歴史・伝統文化及び東洋文化の保存と継承の中心拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承	1
(1)	-1 適時適切な収集	1
(1)	-2 寄贈・寄託の受入れ及びその積極的活用	2
(2)	-1 収蔵品の管理・保存	3
(2)	-2 保存環境の調査研究の実施	5
(3)	-1 収蔵品の修理	6
(3)	-2 科学的な技術を取り入れた修理	7
(4)	収集・保管のための調査研究	8
2.	文化財を活用した日本の歴史・伝統文化及び東洋文化の国内外への発信	10
(1)	展示の充実	10
①	平常展	10
②	特別展	12
③	展覧会広報活動の取組み	17
(2)	情報発信機能の強化	19
①	ウェブサイト等による情報の発信	19
②-1	デジタル化の推進	20
②-2	博物館関係資料の収集、レファレンス機能の強化	21
(3)	日本の歴史・伝統文化及び東洋文化の理解促進	22
①	学習機会の提供	22
②-1	ボランティア活動の支援	24
②-2	博物館支援者の増加	25
(4)	調査研究成果の反映	27
(5)	快適な観覧環境の提供	28
①	観覧環境の整備プログラム等の策定	28
②	一般来館者の満足度調査及び専門家の批判聴取	29
③	ミュージアムショップやレストラン等館内環境の充実	30
3.	我が国におけるナショナルセンターとしての機能の強化	31
(1)	調査研究の成果の発信	31
(2)	海外研究者の招聘	32
(3)	保存修理者への研修プログラム	33
(4)	収蔵品の貸与	34
(5)	公私立博物館・美術館等に対する援助・助言の推進	35
II	業務の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置	36

# I. 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

## 1. 日本の歴史・伝統文化及び東洋文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

### (1)-1 適時適切な収集

#### ○方針

京都文化を中心とした美術・考古資料等を購入する。

#### ○実績

京都文化を中心とした美術・考古資料等を中心に購入

- ①購入件数 17件（うち重要美術品1件）
- ②決算額 89,635,000円

#### ○自己点検評価

##### 【良かった点、特色ある点】

- ・「翎毛雑画冊」「水墨山水図」「倣明人画法山水図」の三件は、須磨弥吉郎氏の収集品で、同氏のコレクションが当館に一括寄贈される以前に親族に譲られていたが、今回これらを購入したことで、須磨コレクションをより完全なものに近付けることができた。特に「翎毛雑画冊」は、同氏と親交のあった齊白石の水墨画法になる珍しい作品でもあり、近代の中国絵画の一品としても注目される。
- ・「古文書手鑑」は、京都ゆかりの伏見宮家、下桂の勝菌寺に関する古文書を多く含み、中世の公武のさまざまな文書形式を多彩なバリエーションを持つことでも注目される。民間に出れば、解体され、かつ高価に売買されるであろう文書群を比較的安価で購入でき、手鑑の形式で保存することができたことは特筆される。
- ・そのほか女性の外出着である「被衣」は数少ない風俗資料として、また「補子」は次第に充実しつつある中国・清朝の官服資料として貴重な遺品であり、「銅鐸」は、出土地が判明することから学術的価値が高く、「蔵骨器」は奈良時代の青銅製蔵骨器として希少な遺例で、ともに重要な考古資料ということができる。

平成18年度新収品一覧表（事業実績統計表1頁）

平成18年度新収品一覧（事業実績統計表18～30頁）

## (1)-2 寄贈・寄託の受入れ及びその積極的活用

### ○方針

収蔵品の不足している分野、資料の補完を図るために、新たな寄託品、寄贈品の受け入れに努める。

### ○実績

・寄贈	42件
・寄託	6,179件（目標 6,000件）
・登録美術品	3件

### ○自己点検評価

#### 【良かった点、特色ある点】

- ・寄贈は17年度の6件に対して数を増した。その中で、恒例の特集陳列「雛まつりとお人形」が契機となって御殿飾り、人形の寄贈があったこと、特別展覧会「大絵巻展」を契機として源氏物語色紙など、物語絵、絵巻模本等の寄贈があった。また、金工や考古の分野で、一括コレクションの寄贈があった。
- ・18年度の新規寄託は104件となり、寄託総件数の目標を維持している。なかでも「大絵巻展」以後、物語絵の寄託があったこと、また特別展覧会「京焼」を契機に、京焼の寄託が増したことが特筆される。また、登録美術品制度を活用した「能楽関係資料」が寄託されたことも特筆される。
- ・日常的な寄託者・寄贈者との関係を維持・継続を行っている成果として、多くの寄託・寄贈を受けることができた。特に、重要文化財、重要美術品2件の寄贈を受けたことは特筆に値する。

#### 【見直し又は改善を要する点】

- ・今後も平常展で不足している分野の作品の収集を図るとともに、特別展、特集陳列等を契機に、収集活動を実施し、コレクションの充実に努める。

収蔵品一覧表（事業実績統計表47頁）

寄託品増減表（事業実績統計表48頁）

寄託品一覧表（事業実績統計表49頁）

登録美術品一覧表（事業実績統計表50頁）

## (2)-1 収蔵品の管理・保存

### ○方針

- ・平常展示館建替事業の一環として建設された東収蔵庫を活用し、収蔵品の保存環境の充実を図る。
- ・文化財保存修理所の作業場環境整備のため、空調設備改修を実施するなど文化財管理整備を進める。

### ○実績

#### 1) 温湿度

展示室及び収蔵庫において空調を実施すると共に、空調設備起動運転時における温湿度の急激な変化を避けるため空調運転制御設備を活用し、温湿度管理を徹底したことにより、概ね温度22℃前後、湿度60%前後となるよう一定に保つことができた。

また、文化財保存修理所においては、空調設備改修工事を実施した。工事期間中、旧事務棟を仮作業場として、一部改修工事を行い、文化財保存修理所の機能を損ねることなく進めることができた。

##### ・展示室

開館中は、出入口及び中扉を極力閉鎖して外気を遮断し、温湿度変化の緩和を図った。閉館後は、展示室の扉やシャッターを閉鎖し、温湿度変化の緩和を図った。

##### ・文化財保存修理所

仮作業場での修理作業となり、作業環境が必ずしもよい状態ではなかったが、修理作品、修理作業状況に応じて、個別に加湿器やむろ（湿度を保持するためのビニールハウス）等を設置することにより調整を行い、適正な環境管理を行った。

#### 2) 照明

展示ケース、収蔵庫及び文化財保存修理所仮作業場の照明は、紫外線防止の蛍光灯を使用した。

#### 3) 空気汚染

定期的にフィルター交換を行い、建築物における衛生的環境の確保に関する法律に基づく平常展示館の空気環境測定（浮遊粉塵の量、一酸化炭素濃度、二酸化炭素濃度、温度、相対湿度、気流、ホルムアルデヒドの量）を2ヶ月毎に実施し、基準に適合していることを確認した。

#### 4) 防災

- ・自動火災報知器等を活用し、24時間監視を行った。
- ・京都市内東山区の企業で組織する東山自衛消防連絡協議会加入事業所の一員として、地域自衛消防訓練大会に自衛消防隊メンバーが参加（9月12日）
- ・コンサート開催に当たり、来館者の安全な避難誘導を実施するため、避難誘導訓練を実施（12月22日）
- ・京都市消防局主催の出初式に参加（19年1月11日）
- ・総合防火訓練の実施（19年1月22日）

#### 5) 防犯

- ・赤外線レーザー、赤外線人感センサー、防犯カメラを活用し、24時間監視を行った。

### ○自己点検評価

#### 【良かった点、特色ある点】

- 1) 文化財保存修理所空調設備改修工事の実施により、各室における温湿度管理が可能となり、様々な文化財に対して、きめ細かな環境設定等を行うことが可能となった。
- 4) 文化財保存修理所工房職員を含めた京都市東山消防署員との合同による総合防災訓練を実施し、防火に対する知識を深めた。

#### 【見直し又は改善を要する点】

- 1) 展示室、収蔵庫の空調設備用熱源（冷温水発生機）が故障し、温湿度環境が一時不安定な状態となった。原因は、異常気象による冷房負荷の増大と経年劣化による冷温水発生機内部の配管の損傷によるものと判明

し、緊急修理を行い事なきを得た。この冷温水発生機は、設置後 19 年を経過し、耐用年数を経過しているが、通年のメンテナンスで性能を維持してきた。しかし、今後もこのような事故が発生する可能性があるため、予防的なメンテナンスの実施と、きめ細かな運転監視を行い、温湿度環境の充実を図りたい。

各収蔵庫、展示場の温湿度（事業実績統計表 5 1 頁）

## (2)-2 保存環境の調査研究の実施

### ○方針

収蔵品の保存カルテを順次作成する。

### ○実績

保存カルテ 96件（目標100件）

### ○自己点検評価

#### 【良かった点、特色ある点】

・ 列品の貸与に際して保存カルテを作成蓄積してきた。

#### 【見直し又は改善を要する点】

・ 貸与に供する作品に偏りが生じており、全体的なカルテの作成に至っていない。今後、館蔵品について、計画的なカルテ作成を実施する。

保存カルテ作成件数（事業実績統計表52頁）

### (3)-1 収蔵品等の修理

#### ○方針

- ・修理を要するものについて、展示の充実や有効活用を図る観点から計画的な修理計画を策定し、緊急度の高いものから、陳列品監査会の議を経て順次修理を実施する。
- ・文化財保存修理に関係する資料の保存活用のために、資料のデータベース化を推進する。
- ・国内外の博物館等の修理、保存処理の充実の寄与では、館内の文化財保存修理所の施設及び設備の整備を図り、修理作業がより安全な環境で行える体制を構築し、修理・保存依頼に応える。

#### ○実績

- 1) 修理  
件数 11件（目標 10件）  
決算額 14,025,380円
- 2) データベース 2,870件（目標 250件）
- 3) 修理業者への指導  
毎月1回文化財保存修理所の各工房への巡回を行い、適切な指導、助言を行った。

#### ○自己点検評価

##### 【良かった点、特色ある点】

- 1) 一括寄贈の須磨コレクションを逐次的に修理しており、取り扱いが困難であった作品が展示に供されるようになった。また、他分野の修理も実施した。  
寄付金で修理していた作品の修理が完成した。

##### 【見直し又は改善を要する点】

- 1) 限られた修理費での実施であり、今年度は経費的に高額な修理を実施したために、件数的には少なくなった。

修理件数（事業実績統計表 8 1～8 6 頁）

文化財修理データのデータベース化件数（事業実績統計表 9 2 頁）

### (3)-2 科学的な技術を取り入れた修理

#### ○方 針

伝統的な修理技術とともに、科学的技術を取り入れた調査は、修復を実施する上で重要な手段であるため、必要に応じて実施する。

#### ○実 績

- ・紙本作品についてはすべてにおいて繊維同定・紙質検査を実施し、補修紙の作製等、修理方針策定に役立った。
- ・絵画作品については必要に応じてX線透過撮影を実施し、一部作品においてはエミシオグラフィーによる調査も外部機関に委託して実施した。

#### ○自己点検評価

##### 【良かった点、特色ある点】

修理前における科学的な調査によって、顔料の保護や補修紙作製等について、貴重な情報を得ることができ、よりよい修理に結びつけることができた。

##### 【見直し又は改善を要する点】

科学的調査は修理方針策定に重要であり、今後も継続していく。

#### (4) 収集・保管のための調査研究

##### ○方針

調査研究が収集、展示、教育等博物館事業の基本であることを踏まえ、国内外の博物館・美術館及び研究機関と連携を図り、京都文化を中心とした文化財の調査研究を計画的に実施する。

##### ○実績

###### 1) 近畿地区（特に京都）社寺文化財の調査研究

妙心寺及びその塔頭、日蓮宗諸寺の調査

【概要】平成21年度に開催予定の「妙心寺展」と「日蓮展」（いずれも仮称）に関する事前調査を実施した。

【成果】妙心寺関係では妙心寺本坊と塔頭の麟祥院および衡梅院、日蓮関係では妙顕寺の調査を実施し、妙顕寺では高麗経の優品を確認した。

###### 2) 平安仏教とその造形に関する調査研究

研究課題に関する調査研究および資料の収集・整備、研究報告書の刊行

【概要】平成17年度に実施した「六道の思想と美術」という研究発表と座談会に関する報告書の取りまとめを行った。

【成果】報告書第34冊として刊行。

###### 3) 難波分類に基づく銅鐸出土地名表の作成

（科学研究費補助金 基盤研究（C） 研究代表者：難波 学芸課情報管理室長）

【概要】現在、広く支持されている難波分類に基づいて、各銅鐸型式を比定した銅鐸の総リストを完成し、これに基づき銅鐸の分布論や埋納論の新たな構築を試みる。

【成果】18年度は、各地の銅鐸を調査するとともに、近畿式・三遠式成立時の各地の地域勢力の動向を解明し、合せて近畿式と三遠式内の系列を分析し、その歴史的意味を検討した。その成果は、国立歴史民俗博物館国際シンポジウム「古代アジアの青銅器文化と社会」などで発表した。

###### 4) 五山禅宗寺院に伝わる典籍の総合的な調査研究—建仁寺両足院所蔵本を中心に—

（科学研究費補助金 基盤研究（B） 研究代表者：赤尾 学芸課企画室長）

【概要】引き続き、建仁寺の塔頭である両足院所蔵の版本や古写本などの典籍類を順次調査し、書名・法量・装訂・時代などの書誌学的調査や内容に関する調査研究を実施する。

【成果】両足院所蔵の典籍類のうち、第40箱目から第70箱目までを調査し、書名や法量、時代などを調査カードに記録した。江戸時代の版本が大半であることがわかった。なお本調査研究は、平成19年度より平成22年度まで継続して実施する。

###### 5) 仏教における衣服の寄進と再利用に関する基礎的研究—袈裟、打敷、幡—

（科学研究費補助金 若手研究（B） 研究代表者：山川 学芸課企画室研究員）

【概要】17年度からの継続で、寄進者の衣服を再利用した袈裟・打敷・幡の所蔵状況確認、作品調査を実施した。18年度は、本来のきものの形状を復元可能な打敷を中心に、関西の寺院に伝来した作品について調書の作成と写真の撮影を行い、画像処理によって本来のきものの形状の復元を試みる。

【成果】これまでほとんど紹介されていなかった桃山時代の作例二点を詳細調査できるなど、初期小袖を考えるうえで重要な基準作例を加えることができたと考える。

###### 6) 中国仏教美術における南北の問題

（科学研究費補助金 若手研究（B） 研究代表者：大原 学芸課企画室研究員）

【概要】本研究は、広大な中国の南北地域における、地理的・歴史的要因が複合して生じた仏教美術様式の差違を把握することを目的とする。魏晋南北朝時代から南宋時代までを主範囲とし、南北両者の差違とその歴史的変遷を追い、日本をはじめとする東アジア地域へのその影響を捕捉するものである。

【成果】本年度は、研究課題に対して、交易ルートに注目して、中国遺品にとどまらず東アジア遺品（特に伝世品の多い日本）の再評価を進めた。既に十一世紀後半に関しては研究成果を公開しているが、それに先立つ十～十一世紀前半を中心として、五代分裂期の中国の各地域様式の東アジアへの拡散の様相を明らかにした。また、南北分裂期のモデルケースとなる北魏仏教の研究も継続して行い、その在地の社会的基盤も仏教文化の南北の発現形態の相違の一因となったことを明らかにした。

7) 修復文化財に関する資料収集及び調査研究

【概要】修復中にのみ調査可能な文化財の構造等について、修復過程を観察することにより解析し、当該文化財に関する情報を収集した。また銘文等を解読し、制作年代等に関する資料を収集した。これら収集資料は専用のコンピューターソフトを用いてデータベース化している。

【成果】『京都国立博物館文化財保存修理所 修理報告書』第2号の刊行。本報告書は、当館の文化財保存修理所で平成十二年度に修復作業が行なわれた文化財について、構造、損傷状況、修復状況、修理に際して発見された銘文などを、上記の収集データに基づき報告したものの。

8) 客員研究員の招へい人数 5人

井上 一稔（同志社大学文学部教授）	彫刻に関する調査研究
狩野 博幸（同志社大学文化情報学部教授）	近世絵画に関する調査研究
山田 奨治（国際日本文化研究センター研究部助教授）	文化財情報に関する調査研究
宇都宮啓吾（大阪大谷大学文学部教授）	訓点資料としての典籍に関する調査研究
奥平 俊六（大阪大学大学院文学研究科教授）	永徳に関する調査研究

○自己点検評価

【良かった点、特色ある点】

1) 恒例の社寺文化財調査の形はとらず、将来の特別展覧会を見据えて妙心寺及びその塔頭、日蓮宗諸寺の調査を実施した。

継続している建仁寺の調査の成果を「京焼」展で公開することができた。

2) 研究課題に関する調査研究及び資料の収集・整備を行い、①収集画像資料の整備、②『画像蒐成 XI』の刊行準備、③前年度研究座談会報告書『研究発表と座談会 六道絵の思想と美術』（研究報告書 第34号）の刊行、④海外との資料交換を行った。

【見直し又は改善を要する点】

1) 調査事業を年間計画の中に盛り込み、日程を早期に設定して確実な実施に努める。

調査研究テーマ一覧（事業実績統計表94頁）

科学研究費補助金による調査研究（事業実績統計表97頁）

客員研究員一覧（事業実績統計表98頁）

## 2. 文化財を活用した日本の歴史・伝統文化及び東洋文化の国内外への発信

### (1) 展示の充実

#### ① 平常展

##### ○方針

日常的な調査研究に基づき、日本、東洋の美術、歴史の理解に寄与する質の高い展示を目指すこととし、展示企画に当たっては、作品の保護を考慮した定期的な陳列替えと時季に応じた季節感の表出や特定のテーマによる展示（特別展観や特集陳列）により変化のある展示、又は来館者のニーズを意識した展示を心がける。

##### ○実績

- 総入館者数 556,770人（平常展146,752人 特別展410,018人）
- 1) 開催期間 4月1日～3月31日（308日間）  
平常展のみの開催期間 157日間
- 2) 会場 平常展示館 1階、2階
- 3) 陳列品総件数 1,550件（うち国宝 22件、重要文化財 287件、重要美術品 31件）
- 4) 陳列替回数 59回
- 5) 入場料金 9月30日まで 一般420円（210円）、高校・大学生130円（70円）、小・中学生 無料  
10月1日から 一般500円（400円）、高校・大学生250円（200円）、小・中学生 無料
- 6) 特別展観  
「18世紀京都画壇の革新者たち」  
開催期間 （18年3月25日）～4月9日  
会場 特別展示館  
陳列件数 40件（うち 重要文化財 4件 重要美術品 3件）  
内容 アメリカ・サンフランシスコ・アジア美術館の展覧会に出品された18世紀京都画壇で活躍した始興、大雅、蕪村、呉春、若冲、応挙、蕭白、芦雪ら8人の作品を展示
- 7) 特集陳列
- ①「新収品展」  
開催期間 5月31日～7月2日  
場所 平常展示館2階17室  
陳列件数 26件（うち 重要美術品 1件）  
内容 平成17年度に当館が収集した美術品・文化財を展示
- ②「齊白石とその周辺」  
開催期間 9月6日～10月1日  
場所 平常展示館2階11・12室  
陳列件数 61件  
内容 当館が近年受贈した須磨弥吉郎氏収集品を中心に中国近世絵画の巨匠、齊白石の優品と共に、彼を引き立てた姚華や愛弟子、瑞光和尚等の作品も展示
- ③「紅葉をめぐる」  
開催期間 10月25日～11月26日  
場所 平常展示館2階17室  
陳列件数 20件（うち 国宝 2件、重要文化財 1件）  
内容 秋の京都にふさわしい、紅葉をモチーフにした作品を集めて展示
- ④「高僧の書」  
開催期間 11月15日～12月24日  
場所 平常展示館2階13室  
陳列件数 14件（うち 国宝 4件、重要文化財9件）  
内容 空海、明恵、親鸞、日蓮など、わが国の歴史に名を留めた高僧たちの書を展示
- ⑤「神仙図」  
開催期間 19年1月2日～1月28日  
場所 平常展示館2階11・12室  
陳列件数 29件（うち 重要文化財 8件）  
内容 中国の宋時代から近代、日本の室町時代から江戸時代にかけての神仙図を総合的に取り上げ、その諸相と展開を概観
- ⑥「神像」

開催期間	19年1月2日～3月25日
場 所	平常展示館1階5・6室
陳列件数	12件（うち 重要文化財6件）
内 容	仏像のような製作上の規範がないため、様々な姿をしている神像。それら神々の姿を通して、われわれ日本人が神をどのような存在としてとらえてきたのかを概観
⑦「高台寺蒔絵と南蛮漆器」	
開催期間	19年1月2日～2月12日
場 所	平常展示館2階15・17室
陳列件数	50件（うち重要文化財 2件）
内 容	桃山時代、建物の内装や身の回りの調度品の装飾として流行した「高台寺蒔絵」、また当時来日した西洋人が好んだ「南蛮漆器」を展示
⑧「雛まつりとお人形」	
開催期間	19年2月17日～4月8日
場 所	平常展示館2階17室
陳列件数	70件
内 容	雛人形を中心に、御所人形や賀茂人形など、様々な京人形を展示
8) アンケート調査	満足度 73%

### ○自己点検評価

#### 【良かった点、特色ある点】

- ・ 平常展では、作品に付す題簽解説の規格を読みやすいように更新した。
- ・ 中国の近現代を代表する画家を取り上げた特集陳列「齊白石とその周辺」は、齊白石の作品を一堂に集めたおそらく国内では初めての試みであり、国際的にも高い評価を得た。
- ・ 展示作品のほとんどすべてを指定文化財（国宝・重要文化財）で構成した特集陳列「高僧の書」も、入館者には大変好評であった。

#### 【見直し又は改善を要する点】

- ・ 年度当初計画になかった特集陳列を、秋の特別展覧会開催期間中に急遽開催することとなり、広報が必ずしも行き届かず、観客動員に結びつかなかった。特集陳列については、特別展覧会との時期的な配分について、年度当初から綿密なスケジュール調整を行う必要がある。
- ・ 今年度の平常展入館者数は、昨年度に比べ、6,442人の減となった。ただ、特別展覧会「京都御所障壁画」展について小中学生無料としたため、平常展入館者数に加えていない。また、平常展の小中学生の入館者に限っては、昨年度より約6割の増加となっており、若年層に親しまれる博物館という目標は達成している。
- ・ 4月に、平常展示館入口に人数計測カウンターを設置したところ、特別展入館者の6～7割は平常展示館に入っていることが分かった。今後はこの率をさらに上げるため、平常展示館への誘導を促す案内表示を考えるなど、特別展入館者が平常展を見る割合を更に上げたい。

入館者数、入場料収入、展示テーマ毎にその時代背景等を説明した外国語パネル等の設置

（事業実績統計表100～103頁）

平常展（事業実績統計表120頁）

## ② 特別展

### ○方針

継続的に実施している文化財調査や日常的な研究成果の蓄積をもとに国内外の博物館、美術館等と連携協力を図りながら学術的な水準の高い時宜に応じた魅力的な展覧会を開催する。

### ○実績

特別展総入館者数 410,018人（目標 16万人）

特別展（自主企画展・共催展） 4回

- ① 大絵巻展 ー国宝「源氏物語絵巻」「鳥獣戯画」など一堂公開ー（共催展）（4月22日～6月4日）
- ② 開館110年記念 美のかけはし ー名品が語る京博の歴史ー（共催展）（7月15日～8月27日）
- ③ 京焼 ーみやこの意匠と技ー（自主企画展）（10月17日～11月26日）
- ④ 京都御所障壁画 ー御常御殿と御学問所ー（共催展）（1月6日～2月18日）

### ○自己点検評価

#### 【良かった点、特色ある点】

地道な調査研究に基づいた企画、絵巻の名品を中心とした華やかな企画等多彩な特別展覧会を実施し、いずれも目標入館者数を超え、好評を博した。また、特別展覧会の会場で会場見取り図を配布し、入館者の便を計った。

海外展「悟りの世界：中世日本における禅宗の人物および説話画」については、文化庁、ニューヨーク・ジャパンソサエティ、独立行政法人国立博物館が主催として実施され、作品の出陳及び研究員による作品随伴、展示、監督等に協力した。

## 「大絵巻展—国宝「源氏物語絵巻」「鳥獣戯画」など一堂公開—」（共催展）



### ○方針

卷子という横に長く展開する、しかし天地の幅には制約のある画面を用いた絵巻の特性に注目しながら、平安時代から江戸時代に至る絵巻の代表的な作品によってその魅力に迫る。また、絵巻を臨場感をもって鑑賞することができるようにビデオなどを採用して、展示の工夫をする。

- 1) 開会期間 4月22日～6月4日
- 2) 会場 特別展示館
- 3) 主催 京都国立博物館、読売新聞社、NHK 京都放送局、NHKきんきメディアプラン
- 4) 陳列品総件数 52件（うち国宝18件、重要文化財27件）
- 5) 入館者数 18万6,772人（目標 6万人）
- 6) 料金 大人1,300円、高校・大学生900円、小・中学生400円
- 7) 担当 若杉準治
- 9) アンケート結果 満足度 76%

### 展覧会の内容

現存する最古の絵巻「源氏物語絵巻」や「鳥獣戯画」「信貴山縁起」といった古典的な名品をはじめ、「病草紙」「紫式部日記絵巻」「法然上人絵伝」など多くの国宝を含む約50件を、絵巻の特性や物語の表現方法、絵巻を描いた画家たちなどのテーマを軸に紹介した。



開館前の様子

### ○自己点検評価

#### 【良かった点、特色ある点】

- ・ 絵巻の特性（横に長く展開する画面を持つこと、物語を描いた絵画であること）に鑑み、各作品をできるだけ長く展示し、また物語の理解を助けるために、場面の内容を説明する解説パネルを掲示したことで、「うれしいのは、絵巻が長く巻き広げられ、物語の推移が分かるように配慮されていること。漫画の吹き出しに相当する登場人物のせりふに現代語訳を付けるなどの工夫も凝らされており、絵巻がグッと身近に感じられる。」（毎日新聞）や「長い絵巻は一部分のみが展示されるのがふつうだが、今回は半分を一挙に公開。さらに展示替えによって残りの半分を公開。観客は長い画面の中をゆっくり目を移しながら、物語の世界に没入できる。」（産経新聞）等の評価を得た。
- ・ NHK公開セミナー（4月25日、27日）やNHK大阪文化センター特別講座「大絵巻展～見どころ解説と鑑賞～」（5月19日）などに当館研究員が講演し、展覧会の更なる理解促進に努めた。

#### 【見直し又は改善を要する点】

- ・ 順路や作品配置に工夫をしたが、それでも接近してしか鑑賞できない絵巻の性格のため、入館者数のわりに混雑が生じ、著名な作品を中心に、一時間以上の待ち時間を生じ、観覧者の不満の原因となった。今後はさらに順路や配置を検討するとともに、整理券の発行など混雑緩和の方策について検討したい。

## 「開館110年記念 美のかけはし 一名品が語る京博の歴史」(共催展)



### 〇方針

京都国立博物館の開館110年を記念し、その生い立ちと果たしてきた役割を館藏品及び寄託品を中心に辿る。また、展示を通し、博物館の役割について再確認し、多くの方々に理解していただく機会となることを目指す。

- 1) 開会期間 7月15日～8月27日
- 2) 会場 特別展示館
- 3) 主催 京都国立博物館、京都新聞社
- 4) 陳列品総件 122件(うち国宝26件、重要文化財37件、重要美術品1件)
- 5) 入館者数 5万9,280人(目標 3万人)
- 6) 入場料金 大人1,300円、高校・大学生900円、小・中学生400円
- 7) 担当 羽田聡、山川暁 ほか12人
- 8) アンケート結果 満足度 92%

### 展覧会の内容

明治30年(1897)5月に開館した京都国立博物館は、今年で開館110年を迎える。千年の都・京都に関わるさまざまな作品を蒐集・研究、そして展示公開してきた京都国立博物館の成り立ちからの長い歴史を館藏品と寄託品を中心に展示した。あわせて、展示を通し、博物館で行われている諸活動を紹介した。



展覧会会場風景

### 〇自己点検評価

#### 【良かった点、特色ある点】

- ・全122件(うち国宝26件、重要文化財37件)の展示作品は、従来の特別展覧会と異なり、ほとんどが館藏品と社寺や個人所蔵家からの寄託品であり、設立の理念に基づく長年にわたる作品蒐集の成果を明らかとした。
- ・展示の構成においては、博物館誕生の背景、110年の歴史で作品の蒐集・補修・調査や研究など、発展的に展開させてきた諸活動について焦点をあて、展示活動にとどまらない博物館の多様な活動について広く理解をうながした。
- ・広報面においては、夏休みを利用して関西方面を訪れる人々にも周知できるよう、プレちらしを作成した。アンケート結果を参照すると、関東方面からの来館者が15%を占め、従来の特別展覧会とは顕著な違いがみられた。
- ・普及面においては、毎年開催している夏期講座のテーマと展覧会の内容とをリンクさせ、理解の一助とした。

#### 【見直し又は改善を要する点】

- ・チラシ、ホームページ、および展示替予定表などにより、作品の入れ替えを周知していたが、見たい作品が見られず残念であった、という意見も寄せられ、この点については今後、広報面で工夫が必要となる。
- ・展示の内容や構成より、照明の具合や展示解説の高さなどに意見が寄せられた。制限はあるが、今後、技法面において一層の工夫が必要となる。

## 「京焼 ―みやこの意匠と技―」（自主企画展）



### 〇方針

京都の伝統産業であり、極めて多様な造形美を誇る京焼の歴史を、最新の調査・研究成果を盛り込んで概観すると共に、優れた陶工の手による名品を展示し、京焼の魅力を紹介する。

- 1) 開会期間 10月17日～11月26日
- 2) 会場 特別展示館
- 3) 主催 京都国立博物館
- 4) 陳列品総件数 279件（うち国宝1件、重要文化財23件、重要美術品1件）
- 5) 入館者数 2万5,283人（目標2万人）
- 6) 入場料金 大人1,200円、高校・大学生800円、小・中学生400円
- 7) 担当 尾野善裕 ほか2人
- 8) アンケート結果 満足度 96%

### 展覧会の内容

京都国立博物館が実施してきた社寺調査で見出された作品群、近年の発掘調査による出土品を核として、これに京焼の歴史を辿る上で不可欠の名品を加えて展示を構成し、近年の考古学的な発掘調査で飛躍的に解明が進んだ黎明期の京焼から、アールヌーボーなどの影響を受けて劇的に変化する近代までの京焼を概観した。

- 1 京焼誕生―黎明期―
- 2 仁清登場―御室焼―
- 3 伝統と革新―乾山焼―
- 4 京焼の展開―出土品―
- 5 京焼の諸相―伝世品―
- 6 名工輩出
- 7 広がる京焼―技術伝播―
- 8 大輸出時代―明治―
- 9 京焼の新世紀―20世紀―



出土品展示室の様子

### 〇自己点検評価

#### 【良かった点、特色ある点】

- ・京焼には少ない指定文化財（国宝・重要文化財）を期間中常時10件以上展示し、質の高い作品をまとめて鑑賞できるよう配慮した。この点、観覧者からも好評であった。
- ・これまで、形態的な面白さばかりが強調される傾向の強かった京焼を、考古学による実証的な視点からも取り上げ、学術性の高い展覧会とすることに努めた。特に、出土品だけを用いて、時代順に展示して見せる部屋を設けたのは、これまでの展覧会にはなかった試みであったとして、観覧者には好評であった。
- ・永年にわたる京都国立博物館の社寺調査成果に基づいて作品選定を行ったので、実質的に初公開となる作品を多数展示することができ、新鮮味のある展覧会とすることができた。
- ・新聞記事など、報道面での露出度は必ずしも高くなかったが、博物館が単なる収蔵・展観施設ではなく、文化財の調査・研究拠点であることを強調した展覧会の紹介記事が多数掲載された。

#### 【見直し又は改善を要する点】

- ・広く新聞、TV等での報道を期待し、特定新聞社・TV局と共催せず、当館の自主企画であることを訴えたが、新聞・TVでの報道の多くが、会期末に近づいてからであったため、いまひとつ観客動員に結びつかなかった。また、見栄えでは劣る考古資料を前面に出しての広報は、観客動員に結びつかないと考え、ポスター、チラシでの露出を極力抑えたが、結果として展覧会の企画の斬新さが伝わってこないとの指摘を観覧者から受けた。効果的な広報の手法については、今後さらに模索する必要がある。

## 「京都御所障壁画 ー御常御殿と御学問所ー」（共催展）

### ○方針



現在の京都御所造営時に描かれた障壁画を初めて公開することにより、多くの国民に我が国の雅に彩られた宮廷文化を紹介する。

- 1) 開催期間 1月6日～2月18日
- 2) 会場 特別展示館
- 3) 主催 京都国立博物館、宮内庁京都事務所、京都新聞社
- 4) 陳列品総件数 38件（199点）
- 5) 入館者数 138,683人（目標 5万人）
- 6) 入場料 大人1,200円、高校・大学生800円、小・中学生無料
- 7) 担当 佐々木丞平 ほか
- 8) アンケート結果 満足度 94%

### 展覧会の内容

現在の京都御所の御殿は 1855 年に造営され、内部の障壁画は、当時の我が国絵画界を担ってきた精鋭の絵師達が総動員されて描かれた。それは、いわば 19 世紀の京都画壇のタイムカプセルともいえる貴重なもので、当時の画壇の全容を如実に物語っている。本展では、京都御所の御殿建物や障壁画の保存管理の観点から、広く公開されることのなかった京都御所の珠玉の障壁画のうち御常御殿と御学問所の障壁画を初めて公開する。



展覧会会場風景

### ○自己点検評価

#### 【良かった点、特色ある点】

本展覧会は当初年度計画にはなかったが、宮内庁京都事務所より期間を区切った特別許可を得ることができたため、急遽開催することになった。

普段は非公開であり、また一般公開時にも御殿の中に入ることができないため、御所の障壁画は、多くの人々が一度はゆっくり鑑賞したいという希望の強いものであったが、多くの観覧者に満足していただけた。また、1855年というきわめて限定された時期に、京都画壇の有力画家たちの多くが参加した障壁画制作活動であっただけに、美術の歴史を研究する研究者の立場からは、江戸後期19世紀の日本絵画史を解明していく絶好の機会となった。一般観覧者、研究者双方にとって、貴重な鑑賞の機会を与えることができ、その意義は大きかった。

#### 【見直し又は改善を要する点】

御常御殿、御学問所という二つの御殿の各部屋ごとにまとめて展示することができず、特色を持った各部屋の障壁画を展示会場では混在して展示せざるを得なかったため、鑑賞者にとっては部屋のイメージと作品とが結びつけにくく、やや混乱を招く点があった。展示作品がどの部屋のどの位置にあたるものかを明確に理解できるよう、展示作品ごとに図示するなど、もっとわかりやすくすべきであった。

### ③ 展覧会広報活動の取組み

#### ○方針

- ・「博物館だより」及び「News Letter」(英文)の発行・配布(各年4回)
- ・「催事案内」の発行・配布
- ・ウェブサイト・モバイルサイトの充実
- ・マスコミ媒体と連携した広報活動の展開(特別展・特集陳列等の記者発表の開催)
- ・平常展での広報活動の充実(特集陳列・特別公開、「館長お薦めの一品」のチラシの作成・配布)

#### ○実績

- 1) 京都国立博物館だより(日本語) 7万9,000部 無料  
発行回数・時期 年4回 4月、7月、10月、1月  
配布先 館内配布のほか、新聞社、雑誌社、TV局、学校、関係機関に配布(希望者には郵送)
- 2) KYOTO NATIONAL MUSEUM NEWSLETTER(英語) 1万2,000部 無料  
発行回数・時期 年4回 4月、7月、10月、1月
- 3) 18年度催事案内 8万部 無料  
発行回数・時期 年2回 4月、10月(10月1日より料金変更のため)  
配布先 一般
- 4) 特集陳列リーフレット  
特別公開 修理完成記念特別公開「重要文化財 大威徳明王像 醍醐寺蔵」(6,000部)  
特集陳列 「新収品展」(6,000部)「齊白石とその周辺」(4,000部)「紅葉をめぐる」(8,000部)  
「高僧の書」(8,000部)「神仙図」(9,000部)「神像」(22,000部)  
「高台寺蒔絵と南蛮漆器」(13,000部)「雛まつりとお人形」(20,000部)  
企画展示 「志野流香道具」(6,000部)
- 5) ウェブサイトによる情報提供(日本語、英語)  
当館の概要と施設案内、展覧会・イベント、収蔵品、出版物等の情報を、鮮明な画像を付け日本語・英語で提供し、適宜更新した。
- 6) モバイルサイトによる情報提供  
当館の概要と施設案内、展覧会・イベント、収蔵品の情報を、最適な画像を付け日本語で提供し、適宜更新した。
- 7) 展示案内(日本語版、英語版、中国語版、韓国語版、仏語版、西語版) 無料  
発行時期(部数) 日本語 5月(3万部)、9月(5万部)  
その他 9月(英 2万2,000部、中 5,000部、韓 1万4,000部、仏 8,000部、西 8,000部)
- 8) マスコミ媒体と連携した広報活動の展開
- 9) 館長お薦めの一品  
発行回数・時期 12回・毎月  
配布先 館内配布及び京都市内の中学校、近隣旅館等
- 10) 近隣博物館等と連携した広報活動の展開  
「京の雛めぐり」ポスター(2,200部) チラシ(75,000部)



館長お薦めの一品ポスター

#### ○自己点検評価

##### 【良かった点、特色ある点】

- 1)、2)、4) 予定通り、「博物館だより」・英文「News Letter」を作成し、特集陳列に関しては、開催ごとにリーフレットを作成し、観覧の便を計った。また特別展覧会開催以外でも、特集陳列開催ごとや新発見のトピックスがある場合には、そのつど記者発表を開催し、報道関係者へ博物館の活動をアピールし、それに

よってより広く一般に広報することができた。

5)、6) 内容の充実と迅速な更新に努めた。

9) 今年度は小中学生の平常展入館者数が大幅な増加となった。昨年度から市内の中学校に送付している「館長お薦めの一品」のチラシ・ポスターの影響もあると考えられる。

10) 特集陳列「雛まつりとお人形」において、昨年度に引き続き、京都文化博物館、博物館さがの人形の家、宝鏡寺門跡と連携して「京の雛めぐり」と題した広報活動を展開し、毎年春に京都で雛人形に関する展示をしていることをアピールし、新たな来館者のみならずリピーターの獲得に努めた。

**【見直し又は改善を要する点】**

5)、6) 内容の適正化を今後更に追求し、信頼性の向上に努めたい。

8) 年度当初の計画になかった特別展覧会を1月に急遽開催することとなったため、広報が行き届かなかった。特別展覧会の開催については、年度当初から綿密なスケジュール調整を行う必要がある。また特別展覧会の広報協力に関して、鉄道各社等外部への協力依頼については、早めに動く必要がある。

平常展・特別展（事業実績統計表120～122頁）

広報刊行物一覧（事業実績統計表125～126頁）

## (2) 情報発信機能の強化

### ① ウェブサイト等による情報の発信

#### ○方針

ウェブサイト等自主媒体を充実させ、広く国内外に情報を発信する。

#### ○実績

ウェブサイトのアクセス件数75万7,812件  
(前中期目標期間平均 52万1,965件)

#### ○自己点検評価

##### 【良かった点、特色ある点】

- ・ 収蔵品情報公開の更なる充実を図るため、旧来の約3倍の解像度で収蔵品画像情報を公開し、その最適な閲覧環境を提供する収蔵品画像拡大システムの運用を開始した。
- ・ 特別展覧会・特集陳列・平常展示・イベント等、携帯サイトの内容は飛躍的に増加した。

##### 【見直し又は改善を要する点】

- ・ 「学叢」は学術的に高く評価されており、その入手を望む声は多い。また、従来、当館は外部の研究活動に寄与するため、積極的にネット上での公開を進めてきている。しかしながら、ネット上での公開は「学叢」の販売実績に多大な影響を与えると予想される。また、「学叢」の保管場所は年々圧迫されてきており、当館の施設建替工事予定などもあり、在庫を減らすためにも「学叢」の販売を促進したいと考えている。前記のような現状を配慮し、「学叢」のネット上での公開作業については、ある程度の調整を要するものと考えられる。
- ・ 携帯端末の機種毎に大きく隔たる処理能力差を考慮し、最適なコンテンツの生成に努める。
- ・ 博物館運営のみならず、文化財の情報発信基盤として、静・動コンテンツの充実と発展を引き続き検討・模索する。
- ・ Web2.0技術の有用性を検討し、サイト構築の一助とする。

ウェブサイトのアクセス件数（事業実績統計表128頁）

## ②-1 デジタル化の推進

### ○方針

文化財のデジタルデータ化を推進する。

### ○実績

・ デジタル高精細画像を含むデータ化した文化財の件数6,169件

### ○自己点検評価

#### 【良かった点、特色ある点】

文化財情報システムの登録は調査成果の充実に伴い順調に進展している。

#### 【見直し又は改善を要する点】

指定文化財画像の高精細化については、現在公開に向け準備を進めている。

収蔵品のデジタル化件数（事業実績統計表128頁）

## ②-2 博物館関係資料の収集、レファレンス機能の強化

### ○方針

美術史、考古学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館・美術館に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図るとともに、これらの資料・情報を多くの国民が容易に利用できるようレファレンス機能の充実に努める。

### ○実績

#### ・資料の収集

図書 合計 1,104冊（和書 815冊、漢書 282冊、洋書 7冊）

写真原版 5,910件（目標 5,000件）

#### ・公開

平常展示館ロビーのレファレンス・コーナーにおいて美術図書を公開

#### ・日本写真印刷株式会社との契約によるデジタル画像データの有料提供の実施

「@KYOTOMUSE Digital Archives」 使用件数 19件、利用収入 163万7,500円（うち当館収入6割）

### ○自己点検評価

#### 【良かった点、特色ある点】

- ・特別展覧会「大絵巻展」、「京焼」に出品された作品の調書作成、写真撮影を行い、また、調査研究に際しても写真撮影を行い、資料の充実に努めた。
- ・@KYOTOMUSE Digital Archives (artize.net) は3年目ということもあり、利用者への周知が進んでおり、利用件数・収入ともに順調に推移している。

#### 【見直し又は改善を要する点】

- ・平常展示館ロビーで公開している美術図書の中には、破損や紛失等があった。今後は一層の管理体制の充実が必要である。

情報資料の収集（事業実績統計表128頁）

特別観覧件数（事業実績統計表129頁）

### (3) 日本の歴史・伝統文化及び東洋文化の理解促進

#### ①学習機会の提供

##### ○方針

- ・児童生徒へは、文化財の理解促進、学習意欲の向上等を促し、心の教育に寄与するような事業を展開する。
- ・大学等と連携し、美術史学・考古学という基本学だけでなく、文化財の取扱、調査、保存、展示を含めた文化財に関する高度で総合的な教育を実施する。
- ・展示品、展覧会をより深く理解してもらえるような講座等を実施する。

##### ○実績

###### 1) 博物館ディクショナリーの発行

- ・発行日 毎月第2土曜日 12回
- ・発行部数 各3,000部
- ・担当した職員数 9人

###### 2) 博物館ディクショナリーをウェブサイトに掲載

###### 3) 教員及び外国人モニター 33人

###### 4) 土曜講座 47回

来館者を対象に展示品・展覧会に関連した講座を毎土曜日に実施した。

(参加者数 4,827人 担当研究員数 延べ48人 うち外部講師 11人)

###### 5) 夏期講座

「文化財の修理と復元」7月26日～28日(3日間)

修理と復元をテーマにした講演と、平城宮東院庭園の現地見学を実施した。

(参加者数 153人、担当研究員数 3人、外部講師 4人)

###### 6) 少年少女博物館くらぶ

「雛まつり再発見！」3月3日

小学・中学生向けに「雛まつりとお人形」の展示を見学しながら解説した。

(参加者数 42人、担当研究員数 1人)

###### 7) 京都大学大学院人間・環境学研究科の歴史文化社会論講座

受入数：5人

担当した研究員数：6人

事業内容：博物館での講義及び社寺での調査による実習並びに学位論文作成指導・論文調査

###### 8) 京都橘大学との連携事業

京都橘大学との学術協定に基づき学生18名が解説ボランティアとして活動。当館研究員が事前講習を行い、10月17日から11月16日までの毎火・水・木曜日の午後2時からと3時半から、平常展示館1階展示室にて、展示作品の解説を実施。

###### 9) キャンパスメンバーズ(大学会員制度)

加入大学 15大学(学生数計8万6,373人)(うち奈良国立博物館との併用加入 10大学)

###### 10) その他

- ・留学生の日の実施(11月3日(金・祝)) 参加者数 154人(うち引率者12人)



夏期講座の平城宮見学



留学生の日に茶室で  
お茶のサービス

## ○自己点検評価

### 【良かった点、特色ある点】

- 1) 「少年少女博物館くらぶ」の開催や「博物館ディクショナリー」を作成し、児童・生徒に対する来館の促進や学習機会の提供に努めた。
- 4) 土曜講座では、毎週最新の研究成果を分かりやすく解説したり、必要に応じて外部講師を招くなど貴重かつ入館者のニーズに則した講座を開催し、また特別展中及び第2・第4土曜日の土曜講座で整理券を発行し、長時間の行列がないよう配慮した。
- 9) 今年度より、博物館と大学との連携を図り、学生に博物館に親しんでもらうことを目的とした「京都国立博物館キャンパスメンバーズ」制度を発足させた。館長、副館長が近隣大学へのPRに努めた結果として15大学に加入していただいた。
- 10) 留学生の日については、平常展の無料観覧に加え特別展覧会「京焼」も無料とした。18年度はお茶とお菓子のサービスに加え、前年度のアンケートにて「日本の伝統音楽が聞きたい」との要望があったことから、琴の演奏会を講堂にて2回実施し、奏者の協力により参加型の演奏を取り入れ、楽しい一日となった。アンケート結果でも9割以上の方々が、満足したとの結果が得られた。

### 【見直し又は改善を要する点】

- 3) モニター制度については、18年度からはモニターにとってより魅力のあるものとするため、今までの平常展のみのものから特別展覧会も含めた制度に変更する。
- 4) 土曜講座を整理券方式にしたことによって、講堂に入れないお客様が出た。講座を非常に楽しみにしていた方が多く、完全に納得していただく説明をすることは難しいが、消防法上及び快適な聴講環境確保のためであり、今後もこの方式を浸透させる。
- 9) キャンパスメンバーズについては、今後平常展示館の建て替えも予定されており、平常展示が常時観覧できない状況も想定されるので、無料（割引）観覧以外の特典を考える必要がある。

学習機会の提供（事業実績統計表131頁）

児童生徒を対象とした教育普及事業、大学等との連携、講座・講演会等の開催実績、ギャラリートーク実施状況（事業実績統計表132～149頁）

## ②-1 ボランティア活動の支援

### ○方針

ボランティアによる博物館が提供するサービスの充実を図るため、ボランティアの育成事業を推進することとして、大学との学術交流を通して、学生ボランティアの育成に努める。また、調査研究ボランティアを募集し、実地に作品と接する機会を与えるとともに業務の充実を図る。

### ○実績

#### 1) 解説ボランティア

①登録人数 18人

②活動内容 京都橘大学との学術協定に基づき、当館研究員が事前講習を行い、10月17日から11月16日までの毎火・水・木曜日の午後2時からと3時半から、平常展示館1階展示室にて、展示作品の解説を実施。



学生ボランティアによる解説風景

#### 2) 調査研究ボランティア

①登録人数 5人

②活動内容 当館職員が行う収蔵品調査・社寺調査等の調査・研究業務を補助

### ○自己点検評価

#### 【良かった点、特色ある点】

- 1) 解説ボランティアについては、当館研究員による長期間の事前講習により、大変分かりやすいと観覧者からも好評であった。学生からの満足度も高かった。
- 2) 調査研究ボランティアについては、調書の書き取りや計測、撮影などの調査研究補助のほか、展示替における作品の移動、収納などの作業にも加わってもらい、業務の順調な遂行に役立った。

#### 【見直し又は改善を要する点】

- 1) 時間帯によっては、利用者が少ない場合があるので、開始時間や実施回数について検討が必要である。

ボランティア受入れ実績（事業実績統計表 154頁）

## ②-2 博物館支援者の増加

### ○方針

友の会活動の充実を図り、文化財への理解を促進する。

博物館の事業をより有効に展開するため、企業との連携を深め、支援体制を充実することが不可欠であると考え、広く企業に博物館への理解の促進を図り、共催や後援を始めとする協力を得られるよう渉外活動に努める。

### ○実績

#### 1) 「友の会」

- ・会員数 3,784人（うち学生会員 355人）
- ・特典 法人内に加え、京都国立近代美術館及び国立国際美術館とも連携（割引）  
京都国立博物館の行う講座等への参加の奨励

#### 2) 社団法人清風会が主催する文化財の見学会・鑑賞会への協力（9件）

清風会会報の巻頭執筆（担当した研究員・回数：4人・4回）

#### 3) イベント

- ・「京都・らくご博物館」（【春】【夏】【秋】【冬】）の開催（講堂）



らくご博物館【秋】で桂米朝さんが語る

#### 企業等との連携

- ・関西広域連携協議会による「関西文化の日」事業に参加協力
  - ・京都府・京都市・京都商工会議所が事業主体である「きものの似合うまち・京都」実行委員会による「京都きものパスポート」事業に優待協力
  - ・国土交通省による「YOKOSO JAPAN WEEKS 2007」事業に優待協力
  - ・京都市による「伝統産業の日」関連事業「きものでおでかけ・入場無料」に参加協力
  - ・京都市による「成人の日」きもの企画に参加協力
  - ・「ミュージアムぐるっとパス・関西2006」実行委員会による事業に参加
  - ・社団法人京都市観光協会による「京都修学旅行パスポート」事業に優待協力
  - ・企業情報誌に展覧会情報を掲載（優待協力）  
（社団法人日本自動車連盟（JAF）、京阪カード、京阪電気鉄道K-Press、パナホーム、JR東海、阪急カード）
  - ・市内ホテル関係者への広報協力依頼
- 4) スルッとKANSAI協議会による「スルッとKANSAI 1dayチケット」、「スルッとKANSAI 2day・3dayチケット」利用者特典としての優待協力
- 5) 京阪電気鉄道株式会社との共催によるイベント（クリスマスオペラコンサート）の開催（特別展示館）
- 6) 日本テレマン協会との共催によるイベント（チェンバロコンサート）の開催



オペラコンサートポスター

## ○自己点検評価

### 【良かった点、特色ある点】

- 1) 17年度に比して入会者数が相当数増加した（17年度 2,386人）。今後もこの数を維持するため魅力ある事業展開を心がける。
- 3) ・「京都・らくご博物館」については、毎回ほぼ満席の盛況であり、継続を希望する声も多い。
  - ・オペラコンサートについては、2回公演とも満席となり、アンケート結果によると概ね好評であった。

### 【見直し又は改善を要する点】

- 1) 友の会会員に対する事業等の実施により会員数増を図る。
- 3) ・企業等との連携による広報活動は積極的に実施していく必要があるが、実際の入館者数の増加につながる広報活動が必要であり、その在り方について十分検討して実施していく必要がある。
  - ・特別展示館は、本来展示会の会場であるため、音楽等のコンサート実施については椅子、座席配置、室内の温度等、設備面で満足が得られない部分もあり、「有料」であることも相まって、アンケートにも不満の意見が見られるところである。これについては、この特殊な事情を参加者にも十分理解してもらえるよう周知する必要があるとともに、館としても問題点の改善に向けて可能な限り努力しなければならないと考える。

友の会（事業実績統計表156頁）

渉外活動（事業実績統計表160～161頁）

留学生の日（事業実績統計表173頁）

#### (4) 調査研究成果の反映

##### ○方針

調査研究成果を、展示へ反映させる。

##### ○実績

特別展「美のかけはし」において、当館の長年にわたる調査研究・収集保管といった活動を紹介  
特別展「京焼—みやこの意匠と技—」において、長年の調査研究成果を反映

##### ○自己点検評価

###### 【良かった点、特色ある点】

- ・かつて窯のあった場所が市街地化しているために、その発掘調査に困難を伴う京焼は、考古学的な実証研究が著しく立ち遅れていたが、近年の京都市街地の再開発に伴う発掘調査により、黎明期の京焼についても実物の提示が可能となり、その成果を踏まえ、秋の特別展「京焼—みやこの意匠と技—」において、黎明期からアールヌーボーの影響を受けて劇的に変化する近代までの流れを辿る展示を行った。
- ・京都金戒光明寺蔵「文殊菩薩騎獅像」の修理の際、X線透過撮影を行い、調査を行ったところ、像内頭部に金属製の納入品が大小3点確認された。この作品については、現在平常展示館1階においてX線写真とその解説とともに展示している。
- ・夏の特別展「美のかけはし」では、当館の開館110年を記念し、長年にわたり調査研究、収集保管を続けてきた当館の活動を展示で紹介した。

## (5) 快適な観覧環境の提供

### ① 観覧環境の整備プログラム等の策定

#### ○方針

- ・ 展示解説の充実を図る。
- ・ 高齢者、身体障害者等が観覧しやすい環境づくりを心がける。

#### ○実績

1) 平常展示館の建替プログラム

2) 6ヶ国語リーフレット

日本語 8万部、英語 2万2,000部、韓国語 1万4,000部、仏語 8,000部、西語 8,000部、中国語 5,000部

3) 音声ガイド

「大絵巻展」 2万889件

「美のかけはし」 6,041件

「京焼」 2,252件

「京都御所障壁画」 2万4,050件

#### ○自己点検評価

##### 【良かった点、特色ある点】

毎年、職員対象の普通救命講習を受講しているが、今年度、警備係衛士5人全員が、上級救命講習を修了した。また、AED（自動体外式除細動器）を平常展示館1階に設置するとともに、職員に対し講習会を開いた。

観覧者用駐車場に限りがあり、身体障害者用駐車スペースも満車の際、高齢者・身体障害者の車両入構により、展示館への入場に配慮した。

##### 【見直し又は改善を要する点】

1) 平常展示館における館内見取り図を増設し、入館者の便を図ったが、今後、平常展示館の建替えに伴う講堂の閉鎖により、6ヶ国語の展示案内の内容などを変更する必要がある。同じく、平常展示館の建替えに伴い、土曜講座などの開催方法について検討する必要がある。

高齢者、身体障害者等に配慮した設備等（事業実績統計表174頁）

音声ガイド実施状況（事業実績統計表175頁）

## ② 一般来館者の満足度調査及び専門家の批評聴取

### ○方針

一般入館者の満足度調査及び専門家の批評聴取を行い、サービス向上を図る。

### ○実績

- ・ 平常展示館での満足度調査 73%
- ・ 特別展の専門家評  
京都国立博物館だより154号（来年度4・5・6月号）に、「京焼」の専門家批評を掲載予定

### ○自己点検評価

#### 【良かった点、特色ある点】

- ・ ホームページへの意見については、迅速に回答するよう努めた。

#### 【見直し又は改善を要する点】

- ・ 平常展示館のアンケート回収率が、特別展と比べると低い。回収率を上げるため、設置場所を検討するなど何らかの対策が必要である。
- ・ 広報誌（京都国立博物館だより）の専門家の展覧会評については、毎年当館自主企画展において批評を受けているが、18年度自主企画展「京焼」は、19年度4・5・6月号に掲載する。

### ③ ミュージアムショップやレストラン等館内環境の充実

#### ○方針

ミュージアムショップやレストラン等の質、サービス向上を図る。

#### ○実績

- 1) オリジナルグッズ開発商品の選定
- 2) レストランでのアンケート調査の実施

#### ○自己点検評価

##### 【良かった点、特色ある点】

- 2) レストランでのアンケート結果をレストラン側及び当館双方で検証し、問題点を共有した。

##### 【見直し又は改善を要する点】

- 1) オリジナルグッズについては、継続的に検討してきており、現在取扱ショップとの打合せを経て、販売準備段階である。
- 2) レストランのサービス向上は、そのまま博物館のイメージアップにつながるので、アンケート結果を十分反映させ、今後さらにレストランの質向上を目指す。

### 3 我が国における博物館のナショナルセンターとしての機能の強化

#### (1) 調査研究の成果の発信

##### ○方針

調査研究活動の成果を各種刊行物、シンポジウム、学会等を活用し、広く発信する。

##### ○実績

#### 1) 平安仏教とその造形に関するシンポジウム（研究発表と座談会）

17年度に2回開催したため、18年度は開催を見送った。

17年度開催の研究座談会報告書『研究発表と座談会 六道絵の思想と美術』（研究報告書 第34冊）を刊行

#### 2) 国際シンポジウム「京焼へのまなざし」 11月11日

テーマに沿った発表とパネルディスカッションを実施した。

（開催場所 京都会館 参加者数 152人 担当研究員数 1人 外部講師 3人）



パネルディスカッションの様子

#### 3) 学叢 第28号の発行 1,200部 2,000円（博物館・美術館等には無料配布）

発行時期 5月

#### 4) 各種学会、シンポジウムでの発表 8件

##### ○自己点検評価

#### 【良かった点、特色ある点】

2) 国際シンポジウムは、博物館とは離れた場所での開催であったが、多くの方々に参加していただいた。特別展「京焼—みやこの意匠と技—」に因んだやや専門的なテーマであったが、大変分かりやすかったと参加者からは大変好評であった。

#### 【見直し又は改善を要する点】

1) 財団法人仏教美術研究上野記念財団の助成で行ってきた研究発表と座談会は、昨年2回開催したため今年度は、研究発表と座談会については見送ることとし、昨年開催した2回目の報告書の作成を行った。なお、来年度は実施予定である。

学会等発表実績一覧（事業実績統計表190～191頁）

論文等発表実績一覧（事業実績統計表198～199頁）

調査研究刊行物一覧（事業実績統計表203頁）

シンポジウム開催実績一覧（事業実績統計表205頁）

## (2) 海外研究者の招聘

### ○方針

海外の優れた研究者を招聘し国際シンポジウムを開催するなど博物館活動に対する示唆が得られるよう努める。

### ○実績

- 1) 海外研究者招へい  
9人（うち国際シンポジウムでの招聘 2人）（目標 5人）
- 2) 当館研究員の海外派遣  
延べ14人（目標 1～2人）
- 3) 国際会議への参加  
9月7日～11日 国際学術検討会（中国 南京師範大学） 赤尾 学芸課企画室長

### ○自己点検評価

#### 【良かった点、特色ある点】

1)、2) 特別展覧会「京焼—みやこの意匠と技—」関連で5人の研究者を海外から招へいし、また当館研究員も作品調査のため海外へ渡航した。

東アジアにおける紙文化財修復について、文化庁、法人本部、当館による招へい事業において中国専門家を招へいし、今後計画されている事業の基盤を作ることができた。

研究交流実績一覧（事業実績統計表 176～185頁）

### (3) 保存修理者への研修プログラム

#### ○方針

修理事業者を対象とした特別展覧会開催に合わせた研修会の開催等により、修復技術の向上に貢献する。

#### ○実績

- ・ 毎月1回文化財保存修理所内の工房を当館研究員が巡回し、定例会議を開催
- ・ 当館で開催した特別展覧会すべてにおいて研修会を実施
- ・ 「第3回文化財（美術工芸品）修理技術者講習会」に協力（10月27日）
- ・ 「平成18年度国宝修理装飾師連盟定期研修会」に協力（11月11日）
- ・ 伝統保存技術者育成を目的としたインターンシップ制度（3人・3大学）

#### ○自己点検評価

##### 【良かった点、特色ある点】

- ・ 毎月1回実施している修理所巡回において、美術史等の専門的立場から修理技術者に指導・助言を実施することで、双方の見識にプラスになった。
- ・ 18年度より、国宝修理装飾師連盟と文化財修復大学院生インターンシップ協議会とそれに加盟している大学と協定を結んだ。18年度は、3人（3大学）が本制度を利用し、文化財保存修理所内で研修を受けた。

#### (4) 収蔵品の貸与

##### ○方針

収蔵品の活用を図ることについては、展覧会等での展示以外にも保存状況を勘案しながら国内外の博物館、美術館等への貸与を推進する。

##### ○実績

収蔵品貸与 232件（うち海外への貸与 8件）（目標 200件）

特別観覧件数 841件

##### ○自己点検評価

###### 【良かった点、特色ある点】

- ・公私立博物館・美術館の要請により、当館の展示計画との調整を行ったうえで、積極的に収蔵品の貸与を行い、各博物館、美術館の展示の充実に寄与した。
- ・「@KYOTOMUSE Digital Archives」(artize.net)を介したデジタル画像の提供事業の周知が図られ、利用件数が徐々に増加してきた。

国内の博物館・美術館等への収蔵品貸与件数、海外への列品貸与、考古の相互貸借実績  
(事業実績統計表207～210頁)

## (5) 公私立博物館・美術館等に対する援助・助言の推進

### ○方針

公私立博物館・美術館の展示企画の充実のために、機会あるごとに援助や助言を行う。

### ○実績

- 1) 公私立博物館・美術館等に対する援助・助言 28件
- 2) その他
  - ・「大エジプト博物館専門家委員会」に出席（6月14日）
  - ・東京文化財研究所及びイタリア I C C R O M 主催国際研修「紙の保存と修復」に協力（9月22日）
  - ・奈良文化財研究所主催「東アジア文化財保存修復国際会議」に参加（9月23日～26日）
  - ・兵庫県美術工芸品ヘリテージマネージャー養成講習会に協力（9月28日）
  - ・文化庁主催「第5回指定文化財（美術工芸品）企画・展示セミナー」の講師として5人の研究員が協力（11月7日、9日、10日）
  - ・国立歴史民俗博物館主催国際シンポジウム「古代アジアの青銅器文化と社会」に参加（12月1日～3日）
  - ・NHKプロモーション主催「かざる情熱－縄土器からネイルアートまで」企画会議に参加（12月8日）
  - ・秋田県主催による中国甘肅省交流員の視察研修に協力（12月22日）

### ○自己点検評価

#### 【良かった点、特色ある点】

- ・18年度も文化庁主催による、公私立博物館・美術館等の学芸担当者を対象とした指定文化財企画・展示セミナーに対し、当館研究員5人が講師として協力したほか、会場も提供した。
- ・地震対策として、兵庫県教育委員会が実施した「ヘリテージマネージャー養成講習会」については、阪神淡路大震災に協力した経験を踏まえ、特段の協力をを行い、危機管理に対する助言を行った。

#### 【見直し又は改善を要する点】

今後も、要望に応じ、積極的に助言、協力していく。

公私立博物館・美術館等に対する援助・助言（事業実績統計表214～215頁）

## Ⅱ 業務の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

### ○方針

- ・光熱水量の使用状況を把握し、管理部門を中心に節減に努める。また、廃棄物の分別収集を徹底し、リサイクルを推進する。
- ・館内施設の利用については、土曜講座等での利用のほか、体外的な利用の促進を図り、有効利用を推進する。
- ・業務を見直し、外部委託をさらに推進する。
- ・情報設備を有効に活用した事務処理体制を構築し、業務の省力化・迅速化・効率化を推進する。
- ・広く競争入札への参加の機会を与えるとともに経費の削減を図る。
- ・評議員会、運営会議等で事業評価を行い、その結果を事業等に反映させる。
- ・各種研修会を通じて、職員の意識改革を図る。

### ○実績

#### 1 業務の効率化

#### 2) 省エネルギー、リサイクルの推進

電気

(単位：kwh)

14年度	15年度	16年度	17年度	18年度
2,253,965	2,197,157	2,052,921	1,817,383	1,841,233

前年度比 101.3%

水道

(単位：m<sup>3</sup>)

14年度	15年度	16年度	17年度	18年度
21,052	21,161	15,384	15,801	13,351

前年度比 84.5%

ガス

(単位：m<sup>3</sup>)

14年度	15年度	16年度	17年度	18年度
221,021	213,894	174,106	178,757	191,205

前年度比 107.0%

紙

(単位：kg)

14年度	15年度	16年度	17年度	18年度
1,848	2,030	2,082	1,621	2,148

前年度比 132.5%

廃棄物（一般）

(単位：kg)

14年度	15年度	16年度	17年度	18年度
20,158	25,051	26,651	34,113	25,588

前年度比 75.0%

廃棄物（産廃）

(単位：kg)

14年度	15年度	16年度	17年度	18年度
5,180	6,730	352	5,330	4,480

前年度比 84.1%

#### 3) 施設有効使用の推進

講堂の利用 67件 (5,709人) (有償貸付 11件)

※ 17年度 58件 (5,195人) (有償貸付 2件)

茶室の利用 26件 (427人) (有償貸付 23件)  
 ※ 17年度 28件 (887人) (有償貸付 27件)  
 イベントによる利用 8件 (1,548人)  
 ※ 17年度 16件 (9,395人)

4) 民間委託の推進

新たに平常展の一部の看視業務、インフォメーション業務の一部、図書管理業務、財務業務の一部において外部委託を実施するとともに、特別展（自主展）にかかる臨時要員についても外部委託を実施

5) 一般競争入札 16件

2 事業評価の実施及び職員の意識改善

1) 評議員会 2回

2) 各種研修・講習会

- ・ 東山消防署員を講師とし普通救命講習会（7月10日）



普通救命講習会

- ・ 京都市消防局実施の上級救命講習会（10月5日、11月29日、12月3日、21日） 警備係衛士受講
- ・ 当館産業医による職員対象の健康教育（講演）（10月10日）
- ・ A E D（自動体外式除細動器）操作講習会（10月23日）

敷地の利用 37件 (531人) (有償貸付 34件)  
 ※ 17年度 35件 (529人) (有償貸付 33件)

○自己点検評価

【良かった点、特色ある点】

- 1) 5) 一般競争入札をより一層推進することにより、経費の効率化を図った。
- 2) 2) A E D（自動体外式除細動器）を平常展示館に設置するとともに、職員誰もが使えるよう講習会を開催した。

【見直し又は改善を要する点】

- 1) 3) 当館主催のイベントについては、昨年度の実績を踏まえ、内容を精査したうえで実施したため、利用件数が減少した。また、18年度は他機関等主催のイベントへの協力がなかったため、全体としてイベント数の減少につながった。茶室の利用については、上半期には前年度の利用実績を下回ったが、10月1日より利用規則・料金体系を改め、利用時間の拡大、平常展示観覧をサービスに加えるなどの新制度と併せ、案内チラシを刷新したことにより、下半期は前年度より件数、料金収入ともに増加した。今後は、茶室利用についての広報活動に力を入れるなど、更に利用促進に努める必要がある。
- 4) 今後は、業務の外部委託の中で、特にお客様と直接接する券売、案内、看視業務についてはお客様へのサービス低下を招くことのないよう十分な指導を行うなど、効率化追求だけでなく適切な措置をとる必要がある。